



Support

No. 3

平成23年9月6日

編集・発行

学校支援課 広報担当

<http://www.city.niigata.jp/info/gakusi>

みんなで知恵を出し合った、授業力向上研修会

8月2・3日の両日、秋葉区役所で「授業力向上研修会 ～学習内容の確実な定着を図るために～」を開催しました。希望制の研修でありながら、小・中学校122校、205人の先生方からの参加がありました。

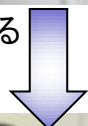
まず、少人数の校種別教科別グループで、新潟市で課題となった全国学力調査の問題を取り上げ、着実に学習内容を身に付けさせる具体的な指導の在り方を考えました。

全国学力調査の問題から新潟市の子どもたちの課題をとらえ、それを実際の授業でどのように解決するのかを考えました。指示・発問から単元構成まで具体的な授業改善の在り方を熱心に話し合う先生方の姿が見られました。

続いて、新潟大学の小久保 美子先生のご講演をお聞きしました。学習指導要領の改善協力者や、2010評価規準の作成のための参考資料、評価方法等の工夫改善のための参考資料の調査研究協力者を歴任された小久保先生から、言語活動を中心に話がありました。学習内容の確実な定着を図るためにも学んだことを、実際に言語活動を通して使うことが有益であるとのことでした。



参加した先生方の意見をまとめる



授業改善のアイデアを出し合う



今回、先生方が熱心に協議される姿に触れ、「言語活動」が、国語の学習を豊かにし、時代に即応した国語の学力を保障することについて、なおいっそう研究を進めて参りたいという気持ちを強くいたしました。
ありがとうございました。



<小久保先生から紹介していただいたホームページ>

○文部科学省 言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.html

○言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306108.html

○国立教育政策研究所 評価規準の作成のための参考資料、評価方法等の工夫改善のための参考資料

【小学校・中学校】<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

ぜひご覧ください。

授業づくりワンポイントシリーズ 算数・数学

平成23年7月1日(金) 鎧郷小学校 3年1組 授業者 石川 美智 教諭

3学年・単元「かけ算の筆算」の2時間目、 21×3 のかけられる数を様々な数に分けて計算する方法を考え、より速く正確に計算できる方法に気付く子どもの姿をねらった授業でした。

1まい21円の色画用紙を3まい買いました。
代金は全部で何円でしょうか。

子どもたちは、数字を丸で囲んだり、求めることを四角で囲んだりしながら課題をノートに書きました。ほとんどの子どもが、 21×3 と立式し、前の時間は1の位が0だったけど、今日は1の位に数があると前時の学習との違いを発表していました。

どんな作戦ができましたか?という先生の問いかけに、「ぼくは、分ける作戦を使いました。」と、子どもたちは多様な計算の仕方を考えていました。



Aさん: 同じ段で九九作戦でやりました。

7×3 と 7×3 と 7×3

Bさん: 1×3 を21回たして63です。

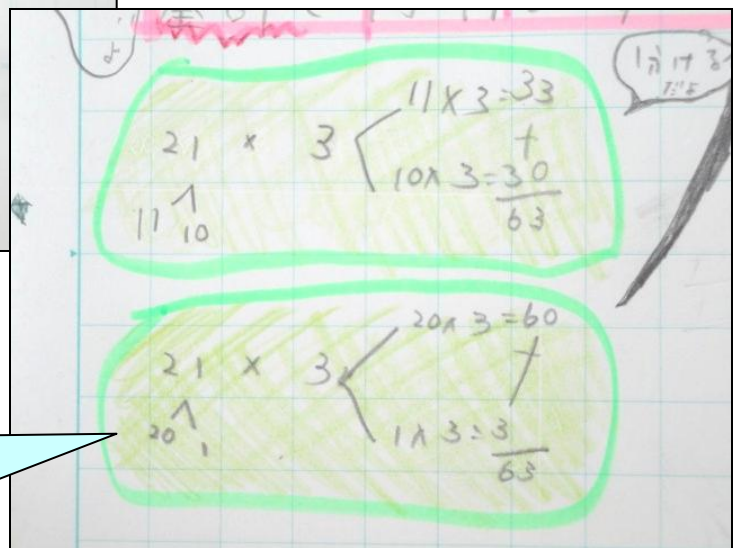
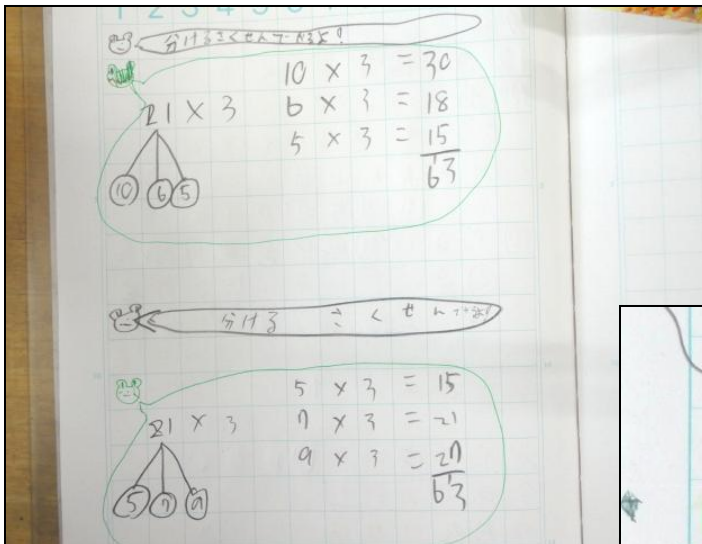
Cさん: 違う段で九九作戦です。

10×3 と 10×3 と 1×3

Dさん: 10×3 と 11×3

Eさん: 10×3 と 5×3 と 1×3 と 5×3

Fさん: 位分け作戦で、 20×3 と 1×3



《学習の振り返り》

私は、Fさんと同じやり方でした。
Bさんの計算は式がたくさんあり、
最後にたすのが大変です。

ノートの記述に、子どもの思考の過程が表れています。このように、計算の仕方を式に表す活動が算数固有の言語活動です。ここでは、一人一人の考えを表現して終わりではなく、表現したもものから考えを深めるよう促すことが大切です。子どもの素朴な表現を、より簡潔で、一般的な表現に高めることが、数学的な考え方の基礎を身に付けることにつながるからです。

上述した学習の振り返りには、思考の高まりが表現されています。子どもたちが互いの考えをかかわらせながら様々な計算の仕方を経験したからこそ、「20と1に分けて計算する」という、より効率的な方法に気付くことができたと言えます。

〈文責 吉田 亨〉

平成23年6月23日(木) 新津第一小学校 5年3組 授業者 笹崎 義隆 教諭

【学習評価の改善を指導(授業改善)に生かす！】

今次の学習評価の改善で注目されたのは、「思考・判断」の観点が「思考・判断・表現」に改められた点です。これは、学習内容等に即して思考・判断したことを言語活動(表現)を通して評価すること(思考と表現の一体化)を明確にしたものです。言い換えれば、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、思考・判断したことを、どのように表現しているかを評価するということです。

このように学習評価は改善されましたが、学習評価の大きな目的は、学んだ内容が確実に定着するよう、学習指導の改善につなげていくこと(指導と評価の一体化)です。大切なのは、どう評価するかの前に、どう指導するかを、今次の改善を踏まえてしっかり考えていくことです。

【「思考・判断・表現」の観点を踏まえ、どう指導するか？】

ここでは笹崎教諭が、上記の学習評価の改善を踏まえて、指導をどのように改善したかを紹介します。

笹崎教諭は、これまでの実践を振り返り、「思考・判断」の観点が、単に文章、表や図に整理して記録するという表面的な現象(作品の出来映え、表現方法の分かりやすさ等)に着目した評価になっていたことが問題であると考えました。そこで、言語活動を通して、子どもの思考・判断の過程と、その結果としての表現を一体的に評価することに留意しました。具体的には、学習問題を解決する過程に3段階の「表現」する場(言語活動)を設定し、自分の考えを広めたり、深めたりできるようにして、思考・判断の過程を見取る工夫をしました。



＜授業の流れ＞

農業の衰退が自分たちの食生活に大きな影響を与えるという切実感をもたせる資料提示を行い、学習問題「10年後も安心して米を食べるにはどうしたらよいか」を設定しました。この学習問題に即して、農業従事者数、耕地面積、自然環境の視点から、自分の考えをワークシートに記入しました(表現1:問題を把握し、自分の考えを表現する場)。その後、グループで互いの考えを交流するとともに、その妥当性を検討し、見方や考え方を広めていきました(表現2:判断したことを交流する場)。最後に、仲間との意見交流により、深まっていった自分の考えを、その変容に着目しながら新聞にまとめました(表現3:考えの深まりを表現する場)。

【笹崎実践から学んだこと！】

- 言語活動が、問題解決的な学習の過程に位置付けられ、学習問題に即して思考したり、判断したり、表現したりする活動になっている点。
- 子どもが考えを広めたり、深めたりできるよう、段階的に言語活動を設定し、思考・判断の過程を見取る工夫をしている点。
- 言語活動を通して、思考・判断の過程と、その結果としての表現を一体的に評価している点。

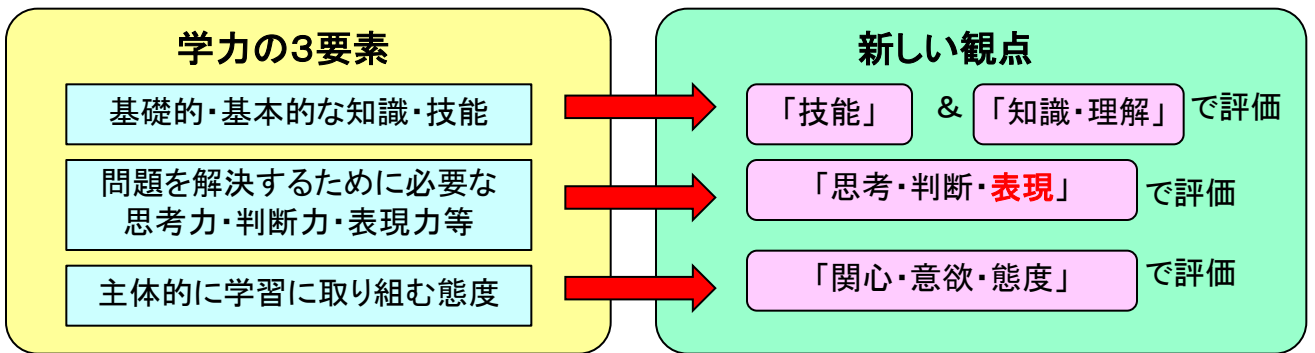


これからの学習評価はこのように…



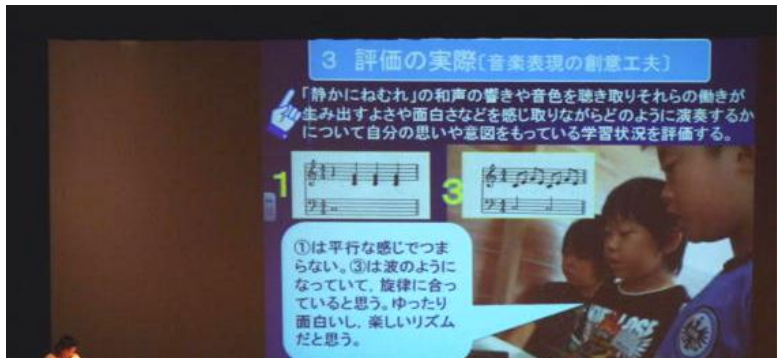
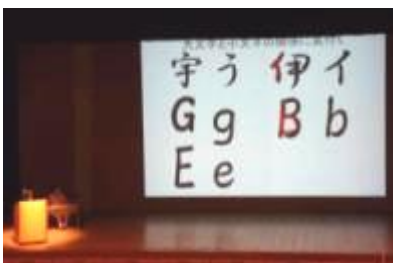
小学校教育課程研修会

新学習指導要領を踏まえた学習評価の観点設定では、学力の3要素との整理が、以下のように行われました。特に注目すべきは、「表現」の位置付けが変更になった点です。これは、「思考と表現の一体化」（学習内容等に即して思考・判断したことを言語活動（表現）を通して評価すること）を企図したものです。



こうした変更点を含みながら、今回の学習評価の改善では、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善すること（指導と評価の一体化）が求められています。

このことを受けて、去る8月22日（月）～24日（水）の3日間、白根学習館において、小学校の先生方を対象に学習評価に関する教育課程研修会を開催しました。



この研修会では、各教科等部会ごとに、昨年度作成した「小学校各教科等年間指導計画大綱案」と「学習評価計画案」を基にした授業実践を発表し、学習評価の在り方や評価の方法について理解を深めました。どの部会でも確認されたのは、「評価を考えるとすることは、授業のねらいや内容を明確にすることと直結する」ということでした。

各小学校においては、この度の研修会での内容を自校の先生方に確実に伝達していただくとともに、学習評価計画の自校化に役立ててくださいますようお願いいたします。

最後に、今年度に入って4か月足らずという短い期間で、授業実践や実践発表の準備、当日の運営等に快く協力してくださった教育課程編成資料作成委員の皆様へ感謝します。